

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社 ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム 武芸川あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡字白山331-1 (電話) 0575-45-0150		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月25日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街を通る道路沿いにあり、自然環境にも恵まれた民家風のホームである。木造作りの構造は家庭の延長としての雰囲気があり、利用者の安心と穏かな暮らしを支えている。職員は、地元採用者が多く、中には他の事業所経験者も含まれており、全職員の意見や気づきを取り入れながら、利用者本位の、ケア環境づくりに努めている。また、事業所の強力な応援者である家族会が組織され、活発な協力体制ができています。特に、事業所の特徴である檜風呂での就寝前入浴は、開設以来から継続している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>これまでの理念を集約した、地域密着型の理念を検討している。苦情相談窓口を重要事項説明書に表示しており、ポスターも玄関に掲示している。ヒアリングの書式を整え、事例を共有し、再発防止に努めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>自己評価では、取り組むべき課題をよく理解しており、定例会議の中で検討しながら、直ぐにできるもの、長期的なものを把握している。職員による「気づき」を高めたり、「記録の方法」などで努力している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>隔月に会議が行われ、家族会との合同での会議も設定されている。事業の取り組みに対する評価、家族の意見に対する検討が行われ、その結果を事業の運営に反映させている。地域社会で高齢者本位の望ましい介護事業を育てるのが大きな目標であり、地域との交流については継続した検討課題となっている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>2ヶ月毎の家族会では、要望や、協力できることはないか等、意見交換をしている。特に、家族の面会数が多く、家族と職員は、何でも話し合える関係ができていますので、意見・苦情等には、素早く対応している。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>職員には、地元の採用者が多く、グループホームの役割や認知症の理解が、徐々に広がっている。近隣の人々との日常的な交流や町内の組織的な活動への参加には課題を抱えており、改善に向けて引き続き努力している。</p>

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	8,400~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(105,000 円)	有りの場合償却の有無	有(期間:12ヶ月)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,260 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 80 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	乾医院、竹内クリニック
---------	-------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々と、共に生きる喜びが持てる暮らしを、心で支えることを実現するために、独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、廊下の見やすいところに明示している。また、職員会議でも全員で確認し、共有しながら、利用者の気持ちに寄り添い、日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は、開設以来努力が続いているが、閉鎖的な地域要因もあるため、地元の人々との交流や役割の理解がまだ十分に得られていない。	○	運営推進会議等で検討しながら、引き続き努力されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・全職員が評価の意義を理解している。毎月の職員会議で、サービスの質を改善する意見が毎回出され、これまで気づかなかったことを改善している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに行われ、事業報告に対する評価と、家族からの意見を聴き検討した結果を事業運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者が必ず出席し情報交換をしている。行政情報・研修情報や助言等を受けている。また、不定期ではあるが市の介護相談員が訪問している		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が、2ヶ月ごとに開催され、報告の機会を設けている。報告は口頭のみであり、内容の記録はしていない。	○	利用者の個別報告を記録し、伝達の方法を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見・苦情を聴いている。意見苦情は受付簿に記録し、対応している。家族の意見で、食事摂取過多による体重増を改善した例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑える努力が見られるが、交代した場合は、大声はださない、プライドや言葉遣いに配慮する、笑顔で接する、自己紹介するなどの注意項目が用意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法令で定められた認知症介護実践研修は、法人の負担で受講している。自主研修は個々の希望で選択している。ホーム内会議は、常に職員教育学習の場となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設立後3年間は、同業他社と交流していたが、双方に思惑のずれが生じたため、現在は中断している。	○	同業者と交流することで、終末期ケアや地域密着など、学び合うことは数多く存在している。交流の再構築に期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の希望を聞きながら、ホーム見学を繰り返し、本人が納得してからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常会話を絶やさず、孤立しないようにに過ごしている。昔話の中で、農作業での米の収穫に関する話題や、編み物の得意な人からは、編み方の教えてもらったりしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1度の「おやつ会」での希望は、ケーキが食べたいことであった。飲み物はメニュー表より選択できるようにするなど、本人の思いに添った工夫をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の定例会議で、本人の状態を話し合い、本人・家族の意見も取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会議で、本人の心身の状態を話し合い、変化があれば、家族や関係者の意見を聞いて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ、病院受診、外泊支援、行楽地などへの日帰り旅行を支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、緊急時を除き家族が行っている。内科と精神科の2つの協力医院からは、それぞれ月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、医師・家族と話し合い、老人介護施設や医療機関に移ることを基本にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	遠くから声をかけたり、命令口調は使わないようにしている。入浴・トイレ介助では暖簾や扉を閉めて、言葉遣いに配慮している。記録等は事務室の指定場所で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は、本人の自由になっている。日中は、雑巾縫い、CDに合わせて歌う、計算ドリル、昼寝などで、自由に過ごしている。畑もあるが、重度化により、畑仕事の希望者はいなくなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要介助者と一部介助者に配慮しながら、同じメニューで、職員も一緒に食事を摂り、会話をしながら楽しい雰囲気づくりに努めている。食後の下膳、お膳拭きなどは利用者が手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、夕食後の入浴を実施し、日替わりの順番制をとっている。就寝前の入浴は、よく眠れる効果があり、開設時より継続している。檜づくりの湯船が、皆に喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事手伝いでは、一人ひとりが役割りを持っており、自分の仕事としている。娯楽ボランティアや音楽療法士の来訪、また、時々、喫茶店に出かけるのが楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせ、近くを日常的に散歩している。散歩のないときは、庭に出て日の光や外気に触れる機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにし、利用者が自由に出入りしている。徘徊行動の人はいないが、職員の見守りで対応できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導を受けて、避難訓練を実施している。管理者は、防災管理者講習を受講済みである。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量を記録し、栄養バランスに配慮している。利用者は、食欲が旺盛で体重増の傾向があり、摂取量や揚げ物を減らしたり、味付けを工夫しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の落ち着いた共用空間があり、リビングからは、季節を感じる風景を眺めることが出来る。トイレ・風呂・居室の位置は、利用者が認識できているので、大げさな表示にはなっていない。不快な音や光もなく快適である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口は、異なる模様の暖簾で特徴を出し、室内には、家族の写真や造花が飾られている。馴染みの衣服、時計なども持ち込まれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。